

◎注意事項をよくお読み下さい



リソな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

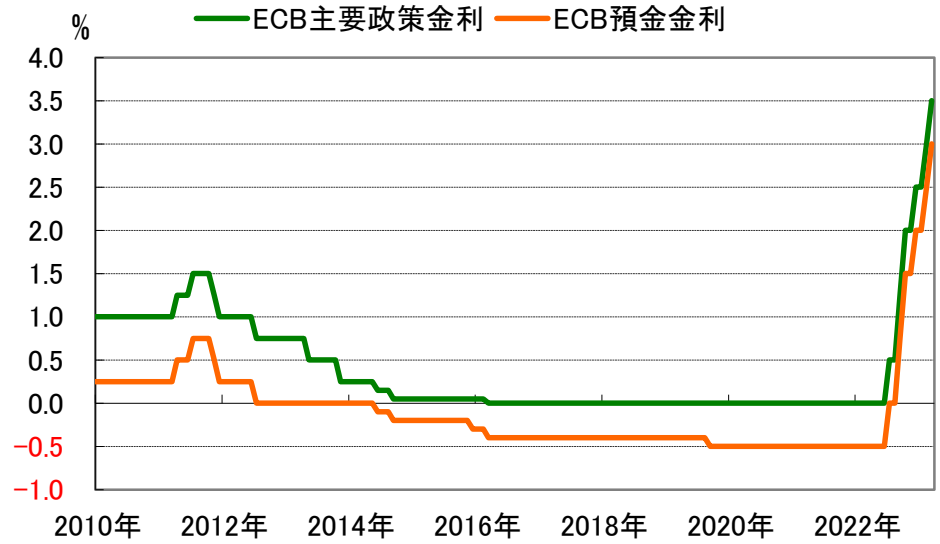
2023/3/17

リソなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ ECB理事会は6会合連続での利上げを決定。利上げ幅は前回と同様0.50%。次回以降の利上げ方針については今回は明記しなかった。
 - ◆ 米国の複数の銀行が破綻し、欧州でも銀行株が下落、一部の経営不安が生じるなかでも、インフレ抑制のため利上げを優先した
 - ◆ 中立金利を上回る利上げを実施しており、今後の政策運営は金融システムの安定性維持についても注意を払うであろう
- ✓ 3月16日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では6会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を3.00%、主要政策金利を3.50%、中銀貸出金利を3.75%へそれぞれ引き上げた。利上げ幅は前回（2月）の声明文で予告していた通り0.50%としたが、足元の金融情勢の不確実性の高まりを背景に、次回以降の利上げ幅については明記しなかった。
 - ✓ 先週末、米国の複数の銀行が破綻し、欧州でも大手金融機関の経営不安が囁かれ、銀行株が大幅に下落するなかでの政策決定が注目された。結果としては、インフレ抑制を優先し、金融引き締めを継続する形となった。
 - ✓ 記者会見で、ラガルド総裁はインフレ退治のコミットメントを弱めていないと発言。不透明感が後退し、ECBの基本シナリオが継続していれば、追加的な引き締め措置が必要であったとした。今回の決定は「極めて大多数が支持した」とし、全会一致ではなかったことを示唆した。
 - ✓ 金融システムの混乱が懸念されるなかでも予定通りの利上げを実施した点はタカ派的な対応であったが、ECBの発表と前後して米国市場で再び銀行株が急落する等、リスクオフ的なセンチメントのなか、金利・株価・為替は神経質に上下動し、方向感の出にくい展開となった。
 - ✓ ECBは2011年、欧州債務危機が囁かれ始めているなかでも利上げを行い、結果的に危機の深刻化を招き、数か月後に利下げに追い込まれた過去もある。今回、ラガルド総裁は金融安定について極めて注意して監視しており、それ故に今後の金利の道筋を現時点で示すのは不可能であるとしたが、デギントス副総裁は一部の欧州銀行には脆弱性があることも認めている。ユーロ圏も既に中立金利を上回る利上げを実施しており、今後の政策運営は経済・物価動向に加え、金融システムの安定性維持についても注意を払うであろう。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2023年	2024年	2025年
実質GDP成長率	+1.0	+1.6	+1.6
12月時点の見通し	+0.5	+1.9	+1.8
HICP（消費者物価）	+5.3	+2.9	+2.1
12月時点の見通し	+6.3	+3.4	+2.3

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。